

モンタナ州立大学ビリングス校冬期英語研修 報告書

総合管理学部 総合管理学科 情報専攻 2年 野田 千晴

1. 研修の動機・概要

今回私は、2月12日から3月14日までの約1ヶ月間アメリカのモンタナ州立大学の研修に参加しました。学生時代にしかできない経験をしてみたいと思ったことと、英語でのコミュニケーションスキルに自信をつけたいと考えたからです。

現地について最初に感じたのは、「今の自分の英語力で本当にやっていけるのか」という不安でした。その予感は的中し、授業は全て英語で行われるため、日本語のサポートは一切ありませんでした。平日は Writing、Reading & Listening、Speaking の3つの授業を受け、放課後はアクティビティ、休日はホストファミリーと過ごすという毎日でした。

授業では、どれだけ集中していても自分の単語力や文法力のなさで聞き取れないことがあり、最初は焦りました。そんな時はまず、文脈からニュアンスを読み取ることを心がけました。また、わからない単語は先生に直接



図 1 Indian Activity の様子

聞いたり、友達と教えあったり、翻訳機を使ったりして、周りとは協力しながら

ら理解を深めていきました。休日はホストファミリーとショッピングや観光、ボードゲーム、家で映画を見るなど、現地の生活を全力で楽しみました。金曜日の夕方にホストファミリーからピックアップされるため、前日に計画的に荷造りをしていました。

2. 学んだこと

この研修を通して学んだことは、大きく分けて2つあります。

1つ目は、「大切なのは完璧な英語ではなく伝えようとする姿勢」だということです。私は参加するまで、文法通りに正しく話すことばかり気にしていました。しかし、実際に授業やホームステイを経験してみると、多少発音が違ったり文法がバラバラだったりしても、みんな私の話を一生懸命聞いてくれました。最初は、「通じなかったら恥ずかしい」と弱気になりそうでしたが、次第に「恥ずかしさ」よりも「伝えたい」という気持ちが勝るようになりました。その結果、完璧さを求めるよりも、自分から積極的に話しかけることの大切さを実感できました。



図 2 プレゼントをもらった時の様子



図 3 指すまで遊んでいる様子

2つ目は、「言葉が完璧に通じなくても、笑顔は通じる」ということです。1ヶ月という短い期間でしたが、ホストファミリーとはとても仲良くなれました。最終日には離れるのが本当に寂しくて、号泣しながらハグしたことを今でも鮮明に覚えています。なぜここまで深い関係になれたのかを考えると、やはり毎日笑顔で接していたからだと思います。私自身、笑顔で話しかけてもらえると嬉しかったですし、「相手の笑顔が見たいからもっと話したい」と思うことが英語を学ぶ原動力になりました。来年の3月には、ホストファミリーが日本に来て再開する約束をしています。それまでに、自分の思いをより詳しく伝えられるよう、これからも英語の勉強を頑張りたいです。この研修での出会いや学びを、これからの大学生活に活かしていきたいと思えます。



図 4 Red Lodge に行った時の写真



図 5 Host family との写真